

令和7年度 庁内実習 総括（案）

※庁内実習の受け入れ機関、実施日、内容、人数等は別表参照。

（良かった点）

- 実習者全員が「良かった」と回答し、自信や視野の拡大につながった等、就職活動にも役立つと感じた人が多かった。支援機関の対応について、丁寧、優しかった、障がい特性に合わせて対応してくれた等があがっていた。
- プロフィール共有や事前説明が丁寧、支援者側も実習者の特性を再確認できる機会となった、業務内容を事前に知らせていただけた等が良かった点としてあがっていた。実際の職場環境での経験が、実習者の自信や就労意欲向上につながったとの意見があがっていた。
- 実習生同士が声を掛け合い協力する様子から、日頃の支援での経験が身につけていることを感じたことがあがっていた。また、実習を重ねる中で、職員間の情報共有や対応方法が改善され、庁内全体で実習受け入れへの理解も広がっていた。

（課題・改善が必要な点）⇒（改善案）

- 実習前は、本人が緊張して自分の口で質問できていなかった、顔合わせ時に配慮事項等を口頭で伝える場面がなかった等が課題としてあがっていた。
⇒顔合わせ時に説明する。
- 作業環境：周囲の音が気になって集中できなかった。
⇒支援者が今まで気づいていなかったのなら気づけて良かったのでは。知っていたなら、打ち合わせ時に伝える。
- 3日間くらいの実習やなるべく1日を通しての実習、もっといろいろなことを経験したかった等のニーズがあった。
⇒①業務の切り出しが問題②担当職員の負担感
⇒今できそうなのは、業務の切り出しでは。
- もうすこし実習の受け入れ可否の連絡が早い方が良い。または目安の時期を伝える。
- 実習者が決まってから顔合わせまでに実習者のプロフィールを伝える場があったほうがいい。
- 事前面談時に環境等を希望により見せていただけたら。
- 実習内容の準備では、実習生ごとの特性に応じた作業量設定や職員配置、実習場所確保等が課題としてあがっていた。
- 障がい者雇用については、企業側が障がいのある方への指示スキルを持っていない場合や限られた場面で十分にご本人の本来の強みを理解してもらうことが難しいのではないかな。
- 実習の目的や目標をどのあたりに設定したいのかのご意見がいただけると良い。
⇒受け入れ側と支援者側の共有を十分に行う。
- 庁内実習だけでなく、地域企業での実習機会も合わせて提案できたら。
⇒実習の周知提案自体が、支援者及び利用者全体のステップアップの意識向上につながるのではないかな。
⇒商工会で実習受入れ会社の開拓ができたら。
- 職員の「忙しいとき、来てくれる？」という言葉で採用されたと思った。
⇒庁内実習はあくまで実習のみであることを丁寧に伝える。

（その他）

- ・事前打ち合わせ時の服装はスーツ？⇒自由でいいのでは。
- ・小さな企業の採用後のフォローアップは制度上どうなっている？
- ・障がい者雇用の実際について話を聞く機会があればよい。⇒実際に企業見学ができたら。
- ・実習の評価を受けて、普段利用しているサービスで具体的な訓練等につながっているのか、また、その後就労に向けての動きがあったかフィードバックがあると受け入れ側の励みにもなる。